

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 3 号)

1 平成8年3月11日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 辻田 実	2番 本橋 亮一
3番 三上 英男	4番 小幡 一宏
5番 忍足 利彦	6番 鈴木 順子
7番 斉藤 実	8番 増田 基彦
9番 島田 保	10番 宮沢 治海
11番 秋山 光章	12番 植木 馨
13番 脇田 安保	14番 永井 龍平
15番 山崎 雅己	16番 鈴木 忠夫
17番 岩村 勝弘	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 神田 守隆
21番 山中金治郎	22番 榎本 春光
24番 福原 勤	25番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

23番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一
経済環境部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実

助 役 小幡 清之
企画部長 永野 修
市民福祉部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会 会長 高橋 博夫
教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 安田 仁一
書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第3号)

平成8年3月11日午前10時開議

日程第1

- 議案第 9 号 千葉県市町村公平委員会共同設置規約の変更に
関する協議について
- 議案第10号 千葉県市町村総合事務組合規約の変更に
関する協議について
- 議案第11号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を改正する条例の制定につ
いて
- 議案第12号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に
関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第13号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の
制定について
- 議案第14号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関
する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第15号 財産の取得について
- 議案第16号 財産の無償譲渡について
- 議案第17号 民事調停の申立てについて
- 議案第18号 民事調停の申立てについて
- 議案第19号 民事調停の申立てについて
- 議案第20号 民事調停の申立てについて
- 議案第21号 民事調停の申立てについて
- 議案第22号 民事調停の申立てについて
- 議案第23号 安房南部伝染病隔離病舎組合を組織する市町村
数の減少及び安房南部伝染病隔離病舎組合規約
の一部を改正する規約の制定に関する協議につ
いて
- 議案第24号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の
一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一

- 部を改正する条例の制定について
- 議案第26号 館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する
条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第27号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一
部を改正する条例の制定について
- 議案第28号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に
関する条例の一部を改正する条例の制定につい
て
- 議案第29号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する
条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第30号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定
について
- 議案第31号 館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部
を改正する条例の制定について
- 議案第32号 館山市農業協力員設置条例の一部を改正する条
例の制定について
- 議案第33号 市道路線の認定について
- 日程第2 { 議案第34号 平成7年度館山市一般会計補正予算(第5号)
- 議案第35号 平成7年度館山市国民健康保険特別会計補正予
算(第2号)
- 議案第36号 平成7年度館山市老人保健特別会計補正予算
(第2号)
- 議案第37号 平成7年度館山市下水道事業特別会計補正予算
(第3号)
- 議案第38号 平成7年度館山市水道事業特別会計補正予算
(第2号)
- 日程第3 請願第6号 耐震診断への助成制度の創設を求める請願書

開 議 午前10時07分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数24名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、議案第9号乃至議案第33号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました諸点についてお尋ねをいたします。

議案第11号、非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正の議案でございますが、及び議案第12号、館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部改正に関する条例、さらに議案第14号、館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部改正についてお尋ねいたします。

議員の報酬を1万円、市長の給与を2万5,000円引き上げようとするものでございますけれども、引き上げるこの金額の根拠は何でありますか。なぜ議員報酬は議長で42万6,000円、副議長で38万5,000円、議員で35万9,000円に、そして市長で86万5,000円にしようとするのか、その金額の根拠について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、これらの案は既に報酬等審議会において妥当との答申を得たとのことではありますが、この報酬等審議会における審議の経過について——私たち議員の活動に対しましてもそれぞれ御意見等もあったかと思うのであります。率直にそういうものについて受けとめてまいりたいと思いますので、それら

の意見でどのようなものがあったのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、県内他市との均衡を配慮したとのことでありますけれども、県内他市では市長の給与を減額したというところもあると報道されております。これら県内他市の状況についてどうなっているのか、具体的には類似都市との比較でどうなっているのか、館山市の市長給与や議員報酬の水準について判断をしたいと思いますので、御説明をいただきたいと思います。

次に、各種審議会の委員の報酬についても今回別表第2のとおり引き上げようとのことではありますが、これら各種審議会委員等の選任のあり方についてお尋ねをしたいと思うのであります。とかくこれらの人事については、選挙の論功行賞だとか、いろいろちまたでは言われるわけであります。公正な行政ということから、その選任のあり方について透明性を高めることが重要なことだと思うのであります。選任に当たって、その透明性を高める、そしてまた同時に、積極的に市民の行政への参加を求める市民参加の行政、市長がよく口にする市民とともに歩むという理念を実施するという意味でも、これら各種委員の公募制についてもっと検討されてもよいのではないかなと思うのであります。各種審議委員の選任に積極的に公募制を取り入れていくお考えはないでありませんでしょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案第25号、館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部改正についてでございますが、幼稚園保育料をこの4月から4,700円を5,200円に値上げしようとのことでございますが、まず幼稚園保育料値上げの理由は何なのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、公立幼稚園の保育料について、安房郡市の中で館山市は富浦町と並んで最も高額になっているというふうに理解をしているわけではありますが、この値上げでさらに高くなるということなのでありませんか。最近の状況はどうなっているのか、館山市を除く平均額は幾らか、御説明をいただきたいと思います。また、県内の他市においては、22市において公立の幼稚園があるかと思うのでありますが、これら公立の幼稚園の保育料の平均額は幾らになるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、これらの値上げによる増収額は市の財政という点から見て幾ら見込まれるのか、その額について御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第28号、館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部改正について及び議案第29号、館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部改正についてお尋ねをいたします。

ホームヘルパーの利用料金をG階層で、1時間当たり900円を910円に10円値上げしようとするものでありますが、その値上げの理由について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、ホームヘルパーの利用料について、現況はどうなっているか、近隣の安房郡市における状況、また県内他市の状況について御説明をいただきたいと思います。

次に、利用料金はAないしG階層と、所得階層別に料金単価が違うように設定されているわけでありましたが、ホームヘルパーの利用実態は所得階層ごとにどのようになっているのか。したがって、今回の値上げ対象になったG階層であります、この値上げによりどの程度の増収が見込まれるのか、御説明いただきたいと思います。

次に、ホームヘルパーの身分についてであります、館山市のホームヘルパーはパートの臨時職員という身分かと思うのでありますが、臨時職員はあくまで臨時的なものであることを前提としたものであります。職業として、きちんとしたものとして確立していくには、それなりの身分保障をしていくことが求められます。これからの未来ある若い人を正規の市の職員としてホームヘルパーに雇用していくというお考えはございませんでしょうか、その辺についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第11号、12号及び14号に関します第1点目、報酬等の金額の根拠は何かとの御質問でございますが、市の一般職の給与改定や近隣市町村の改定状

況等を総合的に検討したものでございます。

第2点目の報酬等審議会における審議の経過についての御質問でございますが、審議会として改定の時期、額とも妥当であるとの答申をいただきましたが、今後も議会と一体となって行財政改革を推進するようにとの御意見がございました。

第3点目、他市の状況はどうかとの御質問でございますが、県内の人口規模4万人以上8万人未満の5市の平均額は、議長43万9,000円、副議長40万円、議員37万5,000円、市長87万7,000円、助役75万8,000円、収入役70万1,000円でございます。これらの平均額と館山市の改定後の報酬等を比較いたしますと、いずれも館山市が平均額を下回っている状況でございます。

第4点目、各種審議会委員等の公募制についての御質問でございますが、各種審議会の委員選任につきましては、今後行財政改革を進める中で検討してまいりたいと考えております。

次に、議案第25号に関します3点の御質問でございますが、教育長より答弁申し上げます。

次に、議案第28号及び29号に関します第1点目、ホームヘルパーの利用料の値上げの理由についての御質問でございますが、今回国の要綱が改正されましたので、国に合わせて改正しようとするものでございます。

第2点目、安房郡市及び県内他市の状況についての御質問でございますが、安房郡市では7市町村、県内各市では16市が改正または改正予定でございます。

第3点目、所得階層ごとの利用実態と増収額の御質問でございますが、AとB階層は合わせて91世帯、CとEはそれぞれ3世帯、Fは2世帯、Gは1世帯でございます。増収額は推計600円程度でございます。

第4点目、ホームヘルパーの身分についての御質問でございますが、館山市といたしましては、現在の雇用形態で支障ないものと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 議案第25号に關します第1点目、幼稚園保育料についての御質問でございますが、幼稚園運営のための保育料につきましては、国の基準に合わせて改定してまいりました。現行保育料 4,700円は平成2年度に改定しておりますが、その後、幼稚園費の増加とともに、地方交付税算定基準も2回の改定が実施されております。このため、平成8年度より保育料を月額 5,200円に改定したいと考えております。

次に、第2点目、安房郡市及び県内他市の状況はどうかとの御質問でございますが、安房郡市市町村の保育料の平均額は 3,000円、県内他市は 5,852円でございます。

次に、3点目、増収額は幾らかとの御質問でございますが、保育料改定に伴います収入増は 150万円余りと見込んでおります。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 議員報酬あるいは市長の給与に関する問題でありますけれども、大体御答弁でありますけれども、引き続き委員会で内容についての審議をしていきたいと思っておりますので、ここでは審議委員の選任の問題で、今後の行政改革とあわせて検討していきたいというようなことでございましたので、公募制について、基本的考え方として、市長さんとしては市民の行政への参加を促すんだという点で積極的に取り組んでいくんだ、こういうふうに今の御答弁から受けとめてよろしいのかどうかという点です。もちろん、具体的な審議委員の — 個々の審議会の内容によって、なかなかそうはいかない面もあると思うんですけれども、基本的な考え方としては、できる限りそういったものを積極的に取り入れていきたいんだ、こういうふうに受けとめていいのかということです。

それから、幼稚園の保育料についてですけれども、従来も安房郡市の中では館山市が非常に高い。それは基本的な館山市の考え方と安房郡の考え方間に大きな開きがある。今回もやはり安房郡で、館山を除く平均では 3,000円、こういう中で館山市が 4,700円を 5,200円に値上げするということになりますと、さらに差が開くということになろうかと思うんですが、こうした

安房郡市の中でも館山市が高くなるということについて、どういうふうにお受けとめになっておるか。従来からあった問題ではあるんですけども、お聞かせいただきたい。

次に、ホームヘルパーの問題でありますけれども、今回10円の値上げで、増収は600円だということで、県内でも30市ある中で16市が——大体半分のところはやるけれども、半分のところはやらないという、こういうことなのかなと思うんですが、国の要綱が変わったら、それに沿って、たとえ10円でも、600円の増収でもというのも、何か随分律儀だなという感じがするんですけども、市の基本的な考え方として、このホームヘルパーの利用料金については、国の要綱が改定になれば、どんどんそれに合わせて、いわばそれとほとんどイコールというような考え方でこの問題を考えておられるのか。どうもその辺の自主的な考え方という点がないのかなという危惧を感じるんですけども、その辺はいかがですか。

それから、このホームヘルパーの問題で、現在の雇用の状況で支障がないというお話なんですけど、今後ホームヘルパーというのは、非常に重要な政策の中心に位置づけられる施策として、どんどん人もふやさなきゃいけない、仕事の内容もこれまで以上に水準の高い仕事をしていかなきゃならぬという点で、量的にも質的にもやはり考えなきゃいけないと思うんですが、県内の状況を調べてみますと、ホームヘルパーは、日額のいわゆる館山市と同じような職員の雇用形態では、私の手元の数字では、平成6年度末ですが、134人に対して正規の職員が422人という——それ以外にいわゆる時間パートというのがありますが、それを除きますとそういうような数字になるわけです。日額パートよりも、日額職員というよりも正規の職員の方がずっと多いわけで、そういう中では館山市は——正規の職員がなくて、日額職員ですべて運営しているというのは県内の中でも流山と館山ということで、非常に特徴があるといえますか、このホームヘルパーのあり方については、館山市の考え方というのは県内の中でも非常に特異な立場にある1つでないかなと思うんです。現在の雇用で支障がないというんですが、果たして本当にそうなのか。今後の雇用の問題を、このホームヘルパーの事業の内容を考えて

いった場合に、非常に不安を感じるんです。今後、しっかりとした身分保障のもとにこうしたホームヘルプ事業というものの柱を据える必要があるんじゃないかなということを思うんですけども、そういうことは要らない、こういうふうにお考えなのか、将来の問題も含めましてどう考えておるのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 審議会委員等の選任の方法についてでございますが、民意の反映ということで、現行の方法で問題がないかどうか、今後さらに検討してまいりたいと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいまの御質問の安房郡市内における保育料が館山市は高いんじゃないかということは、議員のお説のとおりでございますし、また御答弁申し上げたとおりでございます。しかしながら、館山市の教育の状況というものは、幼稚園教育におきましても、県下のかなめといたしまして多くの実績を上げているところであり、過去10年間の決算状況を見ましても、現在までに保育料の占める――決算額に対しまして、相当額の比率を占めているような状況でもありますし、また冒頭に申し上げました国の交付税の基準等の改定によりまして、現在まで2回の見送り等をしておりますので、教育の条件整備、改善化を図る中でさらに効果を高めたいというようなことで、今回値上げをお願いするわけでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） ホームヘルパーの料金の改定の考え方でございますけれども、館山市は国の要綱が変わった時点で改定するんだという考え方で従来から進めてまいりました。今回もそれを受けて改定しようとするものでございます。

それから、ヘルパーの雇用の仕方についての御質問でございますけれども、これは本人の希望によりまして、扶養の関係とか、あるいは勤務――1週間

に3日あるいは5日、日数に応じて仕事をしたいという本人の希望からとらえまして、現在の臨時雇用の仕方につきましては、そういう考え方で雇用しているわけでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） ホームヘルパーさんですけども、本人からの希望というのももちろんあるんですけども、そういう問題も確かに複雑な問題がありますから、それはそれでわかるんですが、しかし市の制度としてこういうものをやっていく場合に、その制度の根幹になるものとしてしっかりと支えていくという点で、市の立場としてそういう人たちをある程度育てていくといいますか、そういうことも必要なのではないですか。将来そういう問題を考えておられますか。現在の状況で今来ている方の雇用の希望から見れば、現在のだんなさんの扶養に入っている方がいいとか、そういうふうなこともあってそういうことも出てくると思うんですが、将来的には例えばホームヘルパーが——現在女性の方だけだという前提で話をしていますけれども、男の人だって将来考えなきゃいけないことも出てくるわけです。そういうことも含めると——男、女だと言うと、ちょっと言い方が変になりますけれども、職業としてちゃんと確立していくということを将来的な問題として考えなきゃいけないし、そのことがやはりこの制度の水準や安定的な運営ということの上で必要になるんじゃないか。そういう点で市はどう考えているんですかということをお聞かせいただきたいんですけども。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） これからこの福祉関係では、ホームヘルパー、この事業は非常に重要な事業でございまして、これからますます充実していく過程の中では、24時間体制、24時間サービス、中長期的にそういう時代が来ると思います。そうなりますと、ヘルパーの勤務しやすい体制といいますか、例えばある時間帯、二、三時間はお手伝いできる、そういった方もこれから出てくると思います。したがって、これからは柔軟性を持った雇用の仕方といいますか、そういった体制がこれから必要になってくるんじ

ゃないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第9号乃至議案第33号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第2、議案第34号乃至議案第38号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案第34号、館山市一般会計補正予算案及び議案第35号、館山市国民健康保険特別会計補正予算案についてお尋ねをいたします。私の質問は議案書に沿って行っていきます。

9ページ — 議案書の9ページです。地方債の補正についてであります。償還の方法について、借入れの時期から30年以内に償還するという現行のこの文面がなくなり、政府資金については融資条件により、銀行その他の場合は協定によると変わりました。この補正の意味について具体的に御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、13ページであります。財産収入の土地売却収入10億 6,249万 1,000

円についてお尋ねをいたします。国道 410号にかかわる用地の売却で約10億円の収入があったものとのことでありますが、この年度末において、市の財政は資金的には大変潤沢な状況ではないかと思えます。現在は大変な低金利の時代であります。新規の事業はこの低金利の資金を利用し、手持ちの資金はできるだけ高い金利のものの繰上償還に活用すれば、金利負担を減らすことができることになっていきますが、そうした売払収入の資金の活用についてどのようにお考えになっておられるのか、御説明いただきたいと思えます。

次に、今年度の一般会計決算の見込みについてどのような見通しを持っておられるのか。現時点ではまだ未確定の点もあるかとは思いますが、かなりの精度で決算の見込みが立つという時期でもありますので、その点についての御説明をいただきたいと思えます。

次に、20ページであります。水産業費の中に水産業振興費として地先型増殖場造成事業負担金があります。それに関連してお尋ねをいたします。漁業振興事業として、水産資源の増加を図り、漁業資源の保護を進めるということは重要なことであります。今日、漁業振興の上で魚の激減というものは深刻な状況であります。市内の釣り船漁師らでつくる八浦遊漁船組合では、例えばイサキは10年前の 100分の1程度に激減したとして、この4月から7月の時期を除いて、それ以外は釣らないことにする等の資源保護の自主規制を始めたということであります。ヒラメやマダイにもそれぞれ自主規制基準を設けたとのことであります。魚群探知機等の電子機器が発達し、だれでも釣れるようになり、乱獲が進んだことが魚資源の激減をもたらしたのであります。釣りもスポーツとして考えるならば、単に釣ればよいということではどんどん釣っていくのも限界が見えてきたということではないでしょうか。釣りは大変なブームですが、同時に乱獲でその存在基盤をみずからつぶしてしまいかねないところにまで来ているのであります。遊漁船組合の自粛などの取り組みは大変重要なことだと思うのであります。市は魚資源のこの現況についてどのような認識をお持ちになるのか、資源保護についてどのようにお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思えます。

次に、20ページの漁港建設費の 9,756万円の減額補正についてであります。

説明書によりますと、下原漁港改修工事について、国庫補助事業不採択に伴う減とのことであります。1億円近い減額補正ですので、その理由について、なぜ国庫補助事業不採択になったのか、御説明をお願いしたいと思います。

次に、22ページであります。港湾管理費について、館山港修築工事負担金として1,011万円の補正が計上されているわけであります。県営の館山港ありますが、市が事業費の負担をなぜするのか、どのような考え方になっているのか、その負担のあり方について御説明をいただきたいと思うのであります。

また、この館山港の現状であります。商港としては、現在の利用状況は、建設用の砂の積み出しや残土の受け入れなど、特定の業種や特定の事業所に変偏しているのではないかと思います。館山港のあり方について検討する場がつくられ、論議されていると聞きます。市は館山港のあり方について、将来の問題を含めましてどのように考えておられるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、23ページであります。小学校の教育振興費、中学校の教育振興費についてお尋ねをいたします。小中学生の保護者に対して就学援助制度があります。この援助対象になるのは、生活保護法の要保護に準ずる程度に困窮していると市町村が認める者となっているわけであります。要保護に準ずる程度の認定は市教育委員会が行うことになりますが、どのような基準でその認定を行おうとするものでありましょうか。行政手続法は、その認定を行政の恣意的な裁量にゆだねるのではなく、その認定基準をだれにでもわかるように具体的に決め、公表することを求めています。また、申請を却下するときは、申請者にその理由を具体的に明らかにすること。さらに、市は申請に関する情報を提供しなければならないとしているわけであります。こうした行政手続法の立法趣旨に立てば、就学援助制度について、その認定基準をできるだけ具体的に決めて公表する必要があると思うのであります。また、こうした制度の内容を市民に知らせていかなければなりません。市の就学援助制度のあり方について、その適用基準の明確化等を検討することについて必要かと思うのでありますが、どのようにお考えでありますか。

次に、33ページないし38ページの議案第35号、館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）についてであります。国民健康保険税は、新年度予算では国保税の引き上げ含みの予算になっているわけでありまして、今年度の決算剰余金が予想よりも多く見込まれるようになれば、それだけ引き上げを抑制する財源ができることとなります。そこで、現時点において——まだ3週間ほど残されているわけでありまして、今年度の決算見込みについてどのように現時点において想定されるか、御説明をいただきたいと思うのであります。

また、館山市の国保税の水準は安房郡市内の中でも高い水準になっているかと思うのであります。市の国保税の状況は安房郡市内の他の10市町村に比べてどのような水準になっているのか、御説明をいただきたいと思っております。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第34号及び議案第35号に関します第1点目、地方債補正、償還方法の補正の意味は何かとの御質問でございますが、平成7年度減税補てん債の償還方法の変更に伴い、所要の改正を行うものでございます。

第2点目、不動産売払収入の運用についてはどうかとの御質問でございますが、国道410号北条バイパス用地の売払収入につきまして、財政調整基金に積み立て、年度間の調整財源として効率的に運用を図ってまいりたいと考えております。

第3点目、決算見込みについてどうかとの御質問でございますが、歳入につきましては市税収入等の動向、歳出につきましては事業の執行状況によりまして、かなり流動的でございますが、決算剰余金は3億円前後になるものと見込んでおります。

次に、第4点目、地先型増殖場造成事業について、資源保護を考える時期ではないかとの御質問でございますが、水産資源の保護につきましては、県及び関係市町村、漁業組合等で構成しております千葉県資源管理型漁業推進

協議会等において、種苗放流、中間育成、生息動向等の調査並びに管理方法の検討等を行っております。今後もこれらの協議会等の組織を通じまして水産資源の保護を図ってまいりたいと考えております。

第5点目、漁港建設費の減額理由についての御質問でございますが、平成7年度における国の漁港改修事業予算が少ないため、採択されなかったものでございます。なお、平成8年度の採択に向けまして、引き続き国、県へ働きかけてまいりたいと考えております。

第6点目、館山港修築工事負担金についての御質問でございますが、地方財政法第27条第1項の規定によりまして、事業費の16.85%を負担しております。

次に、館山港のあり方についてどのように考えているかとの御質問でございますが、現在、管理者でございます千葉県におきまして、館山港の将来のあるべき姿について、地元関係者の要望をもとに、館山港整備構想調査委員会で検討された事項の取りまとめ作業を行っているところでございます。館山港の整備は、館山市の地域振興の重要な柱の1つであり、地域特性を生かした複合的な機能を有する港湾空間の創造を目指しまして、国、県及び地元関係者との連携を図りながら、積極的に推進してまいりたいと考えております。

第7点目の小学校教育振興費、中学校教育振興費に関します問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

第8点目、国民健康保険特別会計の決算見込みについての御質問でございますが、歳入につきましては、国庫支出金が未確定であり、歳出につきましては、医療給付費があと3カ月分の支払いを残しており、かなり流動的ではございますが、決算剰余金は6,500万円前後になるものと見込んでおります。

また、国保税の安房郡市内での比較でございますが、平成7年度本算定時調定額で比較いたしますと、11市町村の中で1世帯当たりでは高い方から6番目、1人当たりでは1番目でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

(教育長高橋博夫君登壇)

◎教育長(高橋博夫君) 第7点目、就学援助制度についての御質問でございますが、就学援助費につきましては、生活保護法第6条第2項に規定する要保護者及び要保護者に準ずる程度に困窮していると認められる保護者に対し、援助費を支給しております。また、認定に当たりましては、国の通知を基準とし、さらに民生委員の助言をいただいて実施しております。

以上です。

◎議長(辻田 実君) 20番神田さん。

◎20番(神田守隆君) 償還方法の変更は、減税補てん債ですか、これが変更になった、そのためのあれだということで、償還方法についての変更があったということで、それはそれとして理解いたしました。

不動産の売払収入の問題でありますけれども、この10億円のお金は来年度の財源というような考え方で使う、それはそれとしてわかります。私がお尋ねしているのは、いわゆる資金繰りといいますか、資金運用といいますか、そういう面から見て、そういうような活用というようなことが、一般の民間企業では普通に行われていることが——そういう資金繰りという問題が、資金運用の問題があるわけですが、そういう点から見て、手持ちの資金が非常にこういうふうな大きな時期というのは、その活用によって金利負担を減らしていくということは当然考えることなんですが、行政というふうになると、そういうふうな考えはなかなかとれないのかどうなのか、そういうような検討ができないのかどうなのかということを聞いているわけで、それについてどうなのか、改めてお聞かせいただきたいなと思います。

次に、館山港の問題であります。千葉県において現当地元関係者を含めて整備構想の検討を詰めている、取りまとめている、こういうようなことでありましたけれども、全く私どもはわからないわけです、この整備構想の中身、どういう論議がされているのか。聞くところによると、300億円規模の大きな計画が検討されているというようなことも聞くわけで、中身がさっぱりわからないというのも大変——私らとしても一体どうなのかと思うんですが、現在の状況というのはこれが私ら議員に説明ができるような段階ではな

い、こういうふうにお考えになっているのか。議会ということになれば、市民に公表するという、こういうことになるかと思うんですが、その辺はどういうふうにお考えになっているのか。

また、この整備構想の検討委員会というのは千葉県がもちろんやっているわけですから、しかしどういう方が——地元の意見を聞いてということでありましても、地元のどういう方々でこれを構成されて検討されているのか、その辺も非常に気になるところでありますので、どういう方によってこの委員会が構成されているのか、お聞かせをいただきたいなということです。

それから、次に就学援助の問題でありますけれども、国の通知に基づいて認定をされている、こういうことでもありますけれども、国の通知というのは12項目ぐらいそれぞれあったあの例のやつかなと思うんですが、適用基準という面から見ますと、まだまだ恣意的なといいますか、要素の極めて入る内容になっているわけで、この行政手続法の趣旨からすると、だれが見てもはっきりわかるような基準というものの、それでやはりやる必要があるし、そしてその認定は基本的には教育委員会の責任ということになるわけですから、教育委員会としてどう考えるんだ。国の通知なんかもすべてしんしゃくした上で、市民に対してできる限りわかりやすい内容の認定基準というものをやはりつくる必要があるんじゃないか。

東京の中野区などでは、生活保護に準ずるという——この準ずるということの意味は、生活保護基準の1.23倍までの所得水準ですということで、その世帯の方はこの申請の対象になりますということを——具体的に、子供が1人の世帯ならば、サラリーマン世帯で年収幾らぐらいの方は対象になりますよということを明示して、お困りでしたら申請してくださいというようなことで、学校で教育委員会が父母に全部そういう通知を出すんです。父母もその通知を見ながら、対象に自分になるとかならないとか、対象になるけれども、うちはそんなには困っていないからというような判断が具体的にできるような措置をとっているんです。そういう基準をやはり明確にしていこうということが、そしてそれを公表していくということが行政手続法で要請されていることではないかなと思うんです。

そういう点で、この行政手続法自身はまだ実施されて日も浅いということもあるんですが、いろいろな市の行政全般にこの問題はかかわってくるわけでありまして、そういう中でもこの就学援助制度などというのは、まず最初に行政手続法の趣旨に沿ってやはりこの際検討をしていくというようなことの1つのケースに考えられたらいかにかと思うんですが、その辺でどうかということです。

それから、国民健康保険の問題ですが、これは本当にいろんな難しい問題がたくさんあって、私も国保運営委員としての立場もあって、いろいろと検討もしているわけですが、大変難しい問題がたくさんあるんです。しかし、この安房郡市で館山市はつい数年前までは安い方だという認識を持っていたのが全く逆転してしまって、館山市が1人当たり調定額では安房郡市の中でトップだ。これまで従来、高齢化が進んでいるところは国保税がどうしても——医療費が高くなる、お年寄りの負担をどうもかぶってしまうというようなことがいろいろ議論されてきたんですけれども、安房郡市の中で館山よりも高齢化の進んでいる町村の方が1人当たり調定額ではむしろ安くなるというような、こういう現象が最近の状況なわけですね。それだけに、この館山の国保税が安房郡市に比べても最も高い。確かに世帯当たりになすと真ん中辺ということになるんですが、1人当たりになるとトップ、それも断トツです。お隣の三芳村は5万9,459円、館山市が7万2,252円、随分違います。鴨川市ではさらに安くて5万8,007円、1人当たり調定額。館山市の7万2,252円というのがこういう数字から見ても随分高いな、こういう感をどうしても禁じ得ないんです。やはり館山市の国保税を——いろんな課題、いろんな議論はあるんですが、安房郡市の中でも飛び抜けて高くなっちゃっている現状の中で、これをやはり何とか政策的なことも含めて低くすることを考えざるを得ないんじゃないかなと思うんですが、そういう点についていかがですか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） まず初めに、資金運用の問題の関係なんですが、民間企業と比べまして、原理原則といいますか、そういった取り扱い上の規定が非常に詳細に定められておりますものですから、その中の運用というこ

とで御理解をいただきたい。詳細には先般、7日の本会議でも申しましたように、特に繰上償還あるいは借りかえ等につきましても非常に詳細な規定がございますので、そういった中の運用ということで御理解をいただきたいと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 館山港関係につきまして私の方から御説明申し上げますが、まず館山港整備構想基礎調査委員会の構成でございますが、日大の理工学部教授の近藤先生を委員長といたしまして、17名で構成をいたしております。学識経験者が3名、これは地元の企業の社長、それから元水産部の水産試験場長、それから市漁連の会長、これが学識経験者の3人でございます。それから、いわゆるこの海岸域の関係者につきましては、漁協の組合長、それから地元の――地元というより連合区長会の会長、それから商工会議所の会頭、それから港湾関係者で、4人でございます。それから、運輸省が2名、それから県が直接の担当の港湾建設課長あるいは土木事務所、南部漁協と、県が3名、それから市が助役、経済環境部長、建設部長、それと私と4名、計17名で構成をいたしております、さらにその下に、港湾関係者の方ですとか、あるいは漁協の専務ですとか、うちの方の関係の課長ですとか、ワーキンググループをして検討いたしているところでございます。

この内容についてでございますが、今現在、委員会を一応終わりにして、取りまとめの段階ということでございますけれども、要は、今回はいわゆる基本構想の部分でございまして、館山港の長期ビジョンのいわゆる基本構想をつくる。その基本構想をつかった後に実施計画というものをつくる。海岸のことにしましては、一応実施計画の段階でたしかお話ししてあると思いますけれども、現在はあくまでも基本構想の段階。したがって、館山湾をどうすべきか、いわゆるエリア取りも含めてどうすべきかという基本構想をやっている段階だ、ということで御理解をいただきたいと思います。

なお、説明できる段階ということは、今現在取りまとめの最中でございま

すので、とりあえずその基本構想ができた段階では議会の皆様方にも報告して御理解を得たい。また、御意見をちょうだいしながら、さらに実施計画等もやってまいりたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 行政手続法上の問題といたしまして、この就学援助費の問題につきまして、今後の課題というようなことで議員さんのいろいろお話をお伺いしましたので、今後この御意見を十分拝聴して実施していきたい、こう考えるわけです。

なお、館山市といたしましては、現在ではできるだけ公開ということをもットーにいたしまして、3月の広報でまず入学生徒に対しましての周知を図り、さらに4月になりますと、各学校で保護者の方に主として1年生を対象としてその趣旨を説明し、また希望する者、要望したい者につきましてはそれを申し出るようにということで、公開制というものを図っておるわけでございます。

なお、議員さんのおっしゃっております項目につきましては、私どもといたしまして、いわゆる法的な問題としての基準の明示がまず第1点、2番目が観察を主体にする問題、3番目は話し合いをもとにしていく、その3つの原則論に立ちまして、現在はそれぞれの決定者というようなことを見ているような状況でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 次に、国保税の関係の問題ですけれども、まず医療費がここ数年かなり伸びているという中で、その医療費を抑えること自体が1つあるわけでございますけれども、片やもう一つ、財源的に一般会計からの繰り入れという問題が出てくるわけですが、一般会計からの繰り出しといいますか、一般会計からの繰り出しにつきましては、現在館山市独自のルールでここ数年やってきておるわけでございます。その一般会計からの繰り出しにつきまして、今の繰り出しにつきましては、ある面では精い

っぱいの — 限度額といいますか、精いっぱいのところでございます、そういう中で、それではどうしたらいいかということで、運営協議会でもいろいろな御意見をいただいているわけでございますけれども、政策的にはどういうものがあるか、こういう話になるんですけれども、やはりその根本である医療費がかからないためのいろんな予防対策といいますか、そういったものを今現に講じているわけでございますけれども、そういう中で、さらにその運営協議会の中でもいろいろな御意見を伺って、国保税そのものについての今後の運営については十分に検討を図っていきたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 館山港の関係でありますけれども、それぞれの立場の方が参加をされて、そういう中で論議がされて、一定の構想についての話し合いがまとめの段階に来ている、こういうふうに理解するんですが、あくまでも構想は構想ということになろうかと思しますので、またこれに対していろいろな意見も今後出てくるでしょうし、そういう中で議会への説明も近々あるというふうに受けとめるんですが、大体今年度中ぐらいにまとめてというふうな時期で考えるのか、もう少しかかるのか、議会に説明があるというふうなことはどういう時期を考えられているのかということです。それが早くあれば、またその中で具体的な論議が — 中身についてどうこうというふうになかなかわからないものですから、できる限りこういったものは早い時期に私らとしても承知したいなと思しますので、その辺どういう時期というふうにお考えかということです。その点だけです。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 時期的なことにつきましては、事業主体が千葉県 — 決して逃げるわけではございませんけれども、最終回の委員会におきましてもいろいろな意見が出まして、さらにそれを調査しながらコンサルタントがまとめていかなければいけないということもございますので、なるべく早い時期というか、うちの方で時期を明言するわけにはいきませんが

も、県の方にも要請をいたしまして、できた時点で議会に御説明を申し上げたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第34号乃至議案第38号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第3、請願第6号耐震診断への助成制度の創設を求める請願書を議題といたします。

委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となりました請願は、お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（辻田 実君） なお、この際申し上げます。

2月28日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、報告いたします。

延 会 午前11時09分

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明12日午前10時開会とし、その議事は平成8年度各会計予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第9号乃至議案第38号

1 請願第6号